

まなざし

第 98 号
 秦野市民生委員児童委員協議会
 発行人 熊澤道子
 編集 広報部
 連絡先
 〒257-0054
 秦野市緑町 16 番 3 号
 TEL 0463 (84) 7711

地域共生社会の実現に向けて



秦野市民生委員児童委員協議会

会長 熊澤道子

昨年十二月に、民生委員・児童委員の一斉改選が行われ、新たな体制で民児協活動がスタートいたしました。私も微力ながら、引き続き、重責を担わせていただくことになりましたので、よろしくお願い申し上げます。

「和」を大切に広く情報交換を行いながら、お互いに支援し合って活動してまいりたいと思います。

また今日、地域における福祉課題も社会情勢の変化などから、複雑・多様化しておりますが、全国民生委員児童委員連合会の活動スローガンであります「支えあう 住みよい社会 地域から」のもと、常に住民に寄り添い、身近な相談相手となり、つなぎ役となって、共に支えあう安心な「地域共生社会」の実現に向け



令和元年 12 月 1 日
民生委員・児童委員委嘱式

て、活動を推進してまいりたいと思います。

歴史ある民生委員・児童委員制度のさらなる発展のために、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



地域援護部会長
遠藤 浩

地域援護部は、広域的な活動が主であり、地域の身近な支援者として、また、市・その他諸団体の事業への協力について、全部員が心を合わせて活動して参ります。



高齢部会長
阿久津 茂

高齢者の貧困と孤立に目を留め、新しい状況を築けるように人知れず手を差し伸べ、安心して暮らせるように関係機関と連携・協働して皆で勉強し、活動を進めたいと思います。



障害部会長
中村 次義

障害部会長を受けることになり部長の方々のご指導を頂き、また、各地区正副部長の協力を得ながらしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

『あなたの心の一言が周りの人の心を変える』



児童部会長
小澤 みつ江

子どもの笑顔には、心を癒されるばかりです。しかし、取り巻く環境は決して楽観できるものではありません。

私たちは、環境やその裏側にある事柄を学び合い、心を寄せられる隣人になれることを願っています。



主任児童委員部長
関 修司

一昔前、赤ちゃんの誕生は家族にとっても、社会にとっても「宝(子宝)」として、喜びの中で受け入れられたものです。将来を支える子ども達と、子育て中の親に寄りそいながら支援して行く責務を感じています。



広報部長
江口 純一

「まなざし」の発行を楽しみに待っていただけのような紙面づくりを目標に、新メンバーで知恵と力を合わせて企画編集したいと思います。皆様には、記事のお願いの際は、ご協力の程よろしく申し上げます。



▼地区会長 (常任理事)

▼部会長・部長

- 熊澤 道子 (民児協会会長・本町)
- 丸山 清江 (民児協副会長・鶴巻)
- 和田 房枝 (南)
- 猪股登美子 (東)
- 廣川 士朗 (北)
- 中志 陽一 (大根)
- 添野 幹子 (西)
- 石川 義雄 (渋沢)
- 水流嘉津子 (末広)
- 須永 克子 (南が丘)
- 北村 均 (広畑)
- 田村 正一 (堀川)
- 遠藤 浩 (地域援護部会長)
- 阿久津 茂 (高齢部会長)
- 中村 次義 (障害部会長)
- 小澤みつ江 (児童部会長)
- 関 修司 (主任児童委員部長)
- 江口 純一 (広報部長)



三年に一度の
一斉改選

令和元年12月1日(日) 13時30分より、保健福祉センターにおいて、令和元年度民生委員・児童委員委嘱式が行われました。

新任委員84名、再任委員165名(合計249名)の方々に、加藤勝信厚生労働大臣からの委嘱状が、高橋昌和市長より交付され、民児協活動のあらたなスタートとなりました。これに伴い、95名の委員が退任されました。在任中のご活躍に感謝致します。

なお、一斉改選の概要および推移を下表に掲載しました。



<民生委員・児童委員 一斉改選概要>

令和元年12月1日 現在

地区名		本町	南	東	北	大根	西	渋沢	末広	南が丘	広畑	鶴巻	堀川	計
定数		26	25	20	18	19	24	25	23	17	17	25	21	260
再任者	民生委員 男	7	5	7	1	6	4	6	7	5	4	5	6	63
	児童委員 女	9	10	5	4	7	10	11	7	4	8	6	8	89
	主任児童委員 男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	3
	委員 女	1	1	1	0	2	1	1	0	1	0	1	1	10
	計	17	16	13	6	15	15	18	14	10	13	13	15	165
新任者	民生委員 男	3	0	4	5	1	4	1	2	1	1	6	0	28
	児童委員 女	2	8	2	6	3	4	5	3	4	1	5	4	47
	主任児童委員 男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	委員 女	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	9
	計	5	9	7	12	4	9	7	6	6	3	11	5	84
合計		22	25	20	18	19	24	25	20	16	16	24	20	249
未選出		4	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	1	11

<民生委員・児童委員 推移>

年度	定数	委嘱数	性別		再任/新任		平均年齢
			男	女	再任	新任	
平成19年	252	240	89	191	141	99	61.6歳
平成22年	253	237	95	142	153	84	62.9歳
平成25年	258	245	99	146	153	92	64.5歳
平成28年	260	256	102	154	153	103	65.3歳
令和元年	260	249	94	155	165	84	67.3歳



※令和元年12月1日現在

地区活動だより

「ママとキッズのほっとサロン」のアンケートの集計と報告

本町地区社協、本町・末広民児協

③開催関係者 21名

(保健師1名、すえひろこども園保育士2名を含む)

④参加子ども年齢

育士2名を含む)

本町地区社協と本町・末広民児協の児童部、主任児童委員では、年3回、4・6・11月に本町公民館で「ママとキッズのほっとサロン」(以下、サロンという)を開催しています。子どもたちのお話や遊び、そしてお母さん同士のコミュニケーションなどで子育ての支援ができればと活動しています。

令和元年11月13日(水)に第22回目を開催しました。その時にアンケートを実施しましたので結果を発表します。

この結果をふまえ、今後の活動に生かしていきたいと思っています。

①参加者 20組

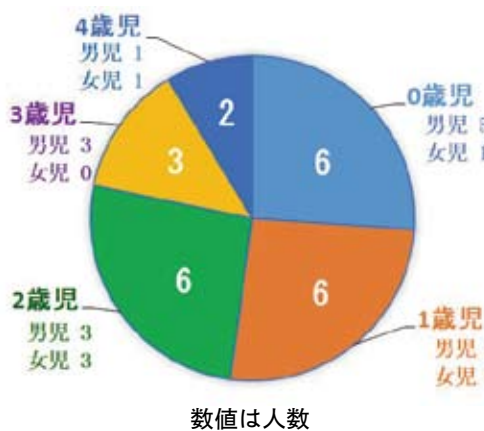
(保護者 21名、子ども 23名)

②参加者地区 合計23名

地区	人数
本町	7名
末広	4名
南	6名
南が丘	4名
洪沢	1名
東	1名

⑤サロンへの参加は何回目ですか

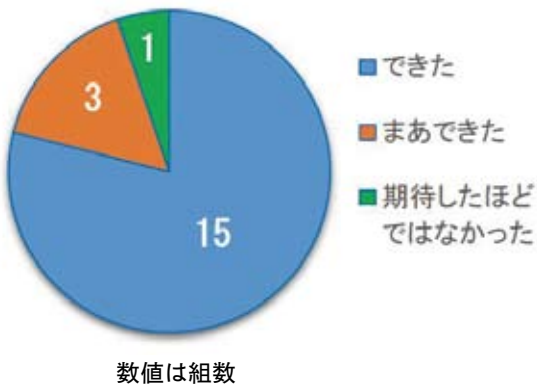
回数	組数
1回	12組
2回	3組
3回	1組
4回	3組
5回以上	1組



⑥このサロンをどこで知りましたか



⑦ほっと一息できましたか



⑧保護者の意見、感想

◇休日にも何かイベントをやっていたら、父親の参加も

きて子どもの遊びの様子もわかるのでご検討お願いします。

◇家の近くの公民館で開催してく

れた事がありました。

◇保育士さんの手遊びに子どもが

夢中でうれしかった。

◇2人(2歳・2か月)を連れて

遊びに出かけるのに苦労してい

たので、今回のような機会があ

り、とても嬉しかったです。

◇とても温かい雰囲気です。

◇親子で作ったおやつが美味し

かったです。(多数)

⑨保健師への相談内容

◇離乳食の進め方

◇頭の形について

◇4か月健診の内容・受診のとき

の注意

⑩反省会での意見、感想等

◇入口にもっと大きなポスター掲

示が必要 ↓ A3サイズへ

◇父親の参加は初めてでよかった。

◇子どもから元気をもらえる。

◇開催時期について検討した方が

いい。(特にインフルエンザの

時期)

◇自身が担当する地区からの参加

が少ないと感じた。



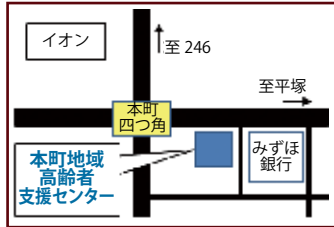
湧水

本町地域 高齢者支援センター



私たちの活動

本町地域高齢者支援センターは、本町四つ角から平塚方面へ50メートルほどの一角に配置し、秦野市から委託を受け高齢の方たちの保健、福祉、生活に関する総合的な相談窓口を担っています。



職員は、主任介護支援専門員1名、社会福祉士3名、保健師1名、看護師1名の計6名です。

担当地域である本町地域は人口2万1397人、その中で高齢者数は6135人です。高齢化率は30%弱ですが、地域内にある団地は高齢化率50%を超えています。

センターが受け付ける年間の相談件数は、昨年の実績では5000件ほどで、半数は介護保険サービスの申請や利用するための相談です。残

り半数は認知症相談、介護・医療相談、高齢者の権利を守るための相談（消費者被害など）、生活上の困りごと等になります。

地域の皆様がよく話される想いは「健康でいつまでも自分のことは自分で行なえて、人に迷惑をかけたくない」ということです。自分らしく生活をしていくためには、外出することができて、仲間がいて、元気でいられることなど、お互いを思いやり、気にかけて気にかけて「おたがいさま」の観点で生活できることが望ましいと考えます。

そのためにも、私たちは仲間づくりや居場所づくりを通して、生活のしづらさを少しでも解消できる仕組みを提案しています。

はだのさわやか体操で

健康づくり

その提案の一つとしてさわやか体操を用いた定期的な体操の会を開催し、地域の皆さんの健康を維持する活動を行っています。

ご協力いただいている拠点は



28ヶ所となり、さらに拠点の拡大にも努めています。私たちもその場に参加することで、地域の様子を把握し、孤立した人が生じないように支援が必要な人を見つけるなどの活動を行っています。

地域共生社会の実現のために

地域共生社会という言葉をお聞きになったことはありませんか？

「全ての人が社会の一員として互いに尊重され、社会から孤立せず、共に助け合い、共に支えあう社会」のことです。地域の絆とされる自治会活動の担い手が不足している課題があります。お互いに見守りや支えあい、助け合い活動を進め、皆様の地域で交流の場が多くなることを重要とします。

私たちも地域の皆様が集う『居場所』に声をかけさせて頂き、出前講座などを開催し、相談窓口の紹介や情報提供を行っています。



私たちは総合相談窓口として、今後ますます地域に貢献していきたいと思っています。

新広報部員紹介

- | | |
|------|-------------|
| 担当会長 | 廣川 士朗 (北) |
| 部長 | 江口 純一 (末広) |
| 副部长 | 吉本 邦彦 (南が丘) |
| 副部長 | 渡邊 俊夫 (鶴巻) |
| 部員 | 安居院孝文 (本町) |
| 〃 | 井上美佐江 (南) |
| 〃 | 堀一 憲行 (東) |
| 〃 | 伊澤 孝 (北) |
| 〃 | 加藤 清春 (大根) |
| 〃 | 前田 郁子 (西) |
| 〃 | 井上 貢 (渋沢) |
| 〃 | 高橋 恭子 (広畑) |
| 〃 | 山田恵美子 (堀川) |

編集後記

民児委員の一斉改選により、広報部も部員12名のうち10名が新任のフレッシュな体制となりました。広報部の活動をこれから学びつつ実践していくという一からのスタートです。部員一同力を合わせて取り組んでいく所存です。皆様に親しまれ、読みやすい紙面づくりを目指していきますので、今後とも、忌憚のないご意見と、各地区の活動及び事例報告など積極的に提供して頂ければ幸いです。(渡邊)